



再建した場所 益城町小谷（下小谷）  
関係した支援 住宅金融支援機構の相談会

インタビューに応じた人 畑野さん



再建された住宅。モダンなつくりで室内も暖かでした。

## Interview

### □被災状況は

母家は築35年ぐらいの持ち家で、内部はぐちゃぐちゃでした。また、農機具などを置いていた小屋も壊れました。母家はちょっと傾いているだけに見え、一回目の判定は大規模半壊でしたが、再審査の時に、基礎のひび割れなどが分かり、全壊判定になりました。家の周りの石垣は、まだ全部崩れています。

### □住まいの再建は

全壊だったので、修理して住むよりは町で解体してもらい、建て直す方を選びました。最初は元の場所に建てる気がなく、熊本市内の住宅展示場を見に行ったのですが、土地も駐車場も狭いし、値段も高かったため、元の場所に建てることにしました。車は仕事や生活面で欠かせないものなので、十分な駐車スペースがあることも大事な条件でした。

母屋と小屋3棟全部を解体しましたので、敷地内で一番日当たりのいい場所を選んで、そこに建てることにしました。

テクノ仮設団地内や、その他の住宅展示場も見に行って話を聞きましたが、娘の建てた家が震災でもどうにもなっていなかったため、娘と同じ建築会社を選びました。

資金については、住宅金融支援機構の相談会\*に行き相談しましたが、建築会社の営業担当の方とも相談し、銀行や支払い方法の選定は建築会社にお任せしました。その結果、全額ローン返済で、息子と連名で親子リレーローンにしています。

外構工事が残っていますので、その分を手持ち資金で支払う予定です。

図面でいろいろと説明してもらいましたがイメージが湧かず、建築中も3回ぐらいしか見に来ませんでしたので、実際にできてみて、「あ、こういう家なんだ」という感じでした。テレビの置き方とか、エアコンの設置場所も家ができてから変えました。

元の家は60坪ほどありましたが、新しい家は26坪です。仮設住宅も当初狭く感じましたが、動線が短いし、掃除も楽でしたので、住み慣れれば仮設住宅の広さでもいいなと思っていました。

断熱の良さも気に入っていて、外が寒い時でも家の中はそれほど寒さを感じません。広く使いたいので、室内にはできるだけ家具を置かないようにしたいです。

### □今後の生活への期待は

元の生活に近づけただけで、充分満足です。

仮設住宅では長屋造りの真ん中で、両隣とも住んでいらっしやっただけで、音が両方から聞こえてきましたし、自分たちの音にも気を遣っていました。

自宅だと、どこにも気を遣わなくて済むのがうれしいですね。

家を建てる前は敷地内の除草が大変で、年に3回ぐらい除草剤散布をしていました。家はできましたが、周囲の擁壁修理を町で対応していただくので、そのあと、外構や庭を整備していきたいと思っています。

インタビュー

### \*住宅金融支援機構の相談会

住宅金融支援機構は、災害からの復興を支援するため、親子リレーローンや親孝行ローン、リバースモーゲージ(災害復興住宅融資)の受け付けを行っています。また、住宅再建に関する金利支援策などの情報提供も行っています。